

七建発第 115 号
平成20年10月14日

国土交通省 道路局長 殿

七ヶ宿町長 梅津輝雄



「今後の道路行政についての意見・提案」について（回答）

平成20年10月7日付で依頼がありました上記につきまして、別紙のとおり回答しますので、よろしくお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮城県七ヶ宿町

東北広域圏は、自然環境の豊かさ、農林産物や観光資源を有し、歴史と伝統文化が多く残り、都市住民の生活を支えるとともに、心の安らぎを与えているものであります。

本町を縦断している国道１１３号（山中七ヶ宿街道）は、藩政時代には、出羽１３大名の参勤交代あるいは、出羽三山詣での交通の要路として、人、物の交流で賑わいを見せていたが、東北本線、奥羽本線と国道１３号の開通により、人、物の流れが減少した。

国道１１３号、山形、宮城県境の二井宿トンネルの整備により、再び人、物の流れが頻繁になり太平洋側から日本海側への物流が「大型の重車両」による交通が増加している現状にある。

交通量の増加に伴う道路の損傷あるいは、高齢者、子供達の歩行への不安と恐怖を感じている。

これらの交通弱者対策については、歩道の整備と除雪による路幅の狭隘による集落内歩行が困難になることから、集落内の消雪道路の整備と、融雪剤散布による車両への影響を考えた場合融雪剤の他成分への開発等が考えられる。

又、本町にとっての観光については、広域的な観光を考えており、そのための一方策としては、国道１１３号（七ヶ宿ダム）と国道３９９号（摺上ダム）を結ぶ横断道路の整備あるいは、県道上山、七ヶ宿線の山形県側の整備を促進することにより、交流人口の増加更には、産業文化の交流等が促進され町の発展に繋がるものと確信しているものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②ー１ 地域の現状と抱える課題

宮城県七ヶ宿町

○現状

- １．交通量（重量車両）の増加による道路の損傷
- ２．歩道整備率の低下
- ３．橋梁の耐震化
- ４．除雪による集落内の路幅の狭隘

○課題

- ・補修で対応できるか疑問である道路構造全体を変える必要がある。
- ・高齢者、子供達の交通弱者の救済。
- ・地震等災害に向けた耐震補強工事
- ・安心して歩行が出来る路幅の確保

②－２ 地域の目指すべき将来像

国道１１３号（山中七ヶ宿街道）を背骨とした、人、物の交流で繁栄した本町にとっては、将来的にも、物流、人との交流には重要な路線である。

広域的な観光を考えた場合、近隣市町へのアクセスをスムーズに移動するには、未整備区間の早期改修と、新たな連絡道路の整備が必要である。

又、少子高齢化に伴い、より安全で安心して通行できる道路整備が急がれる。

自然環境を守り、活かした生態系の保存と、活用（ほたるの里）そして、人との交流を通した「いにしえの道」としての整備を図ることが将来的にも宿場町を残すことが出来るものとする。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

宮城県七ヶ宿町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上 ・ 少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	国道１１３号（七ヶ宿ダム）と国道３９９号（摺上ダム）を結ぶ連絡道路 歩道整備と集落内消雪道路の整備	七ヶ宿ダムと摺上ダムを結び、広域的な観光が図られ、産業文化の交流と、災害時の迂回路として活用できる。 高齢者、子供達が安心、安全に歩行でき、交通事故防止を図る。	